

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 城東区

学 校 名 大阪市立今福小学校

学校長名 寛座 純一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・今福小学校では、第6学年 29名

平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語Aの平均正答率が全国平均を下回った。問題の解答傾向では、話す・聞く領域の問題の正答率が全国平均から約10ポイント低かった。国語Bでは、平均正答率が全国平均を下回ったものの、問題の解答傾向としては、登場人物の心情の変化を読み取る問題の正答率が高かった。しかし、国語Aと同様、話の構成を考える問題の正答率が低かった。算数Aでは、平均正答率が全国平均を下回ったものの、昨年度に比べ改善した。量と測定の領域の正答率には課題が残った。算数Bでは、平均正答率が全国平均とほぼ変わらなかったが、図形問題の正答率が低く課題が残った。これまで課題であった無解答率が国語・算数とも一桁になった。これは学校の取組の効果が出てきていると考えられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕国語A・国語Bとも学習指導要領の領域の話すこと・聞くことの正答率が全国平均を10ポイント以上下回っている。課題としては、役割を決め話し合い活動をする経験が不足していることが考えられる。学級内のグループの話し合いを数多く経験させることで、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理できるようにする。正答率が全国平均を10ポイント以上下回った問題に、書く能力を問う問題がある。内容の中心を書き出しで判断していた。

〔算数〕算数Aでは、数と計算領域と量と測定領域において正答率が全国平均を下回った。四則混合計算の正答率が低い傾向が見られた。算数Bでは、図形領域や数量関係領域において正答率が低かった。特に身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断する根拠となる理由を見つけることが不十分である。しかし、算数Bにおいて、平均の求め方として、飛び離れた数値を除いて平均を求める考え方の正答率は全国平均を超えていた。これは、学習内容の理解ができていることが要因とあげられる。

質問紙調査より

学習の設問では、国語に関して、「国語の勉強が好き」と答えている児童の割合は50%を切っている。しかし、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の問いには90%近い児童が肯定的な回答をしている。算数では、「算数の勉強が好き」と答えている割合は50%程度である。しかし、「授業の内容がよく分かるか」に肯定的な回答をしている児童の割合が80%近い。国語・算数ともに児童が学習内容が分かっていると感じるように指導の工夫をしてきた成果が表れてきた。家庭学習の状況を問う設問では全国の肯定的な回答の割合に比べかなり低くなっている。

今後の取組

〔国語〕現在、今福漢字検定と今福計算検定を始業前に実施し、基礎的学力の向上をめざしている。この取り組みをより充実させる。国語の授業では「わかった」「できた」を児童が感じる展開を図る。読書に関しては、現在、図書ボランティアの読み聞かせなど、児童が本に親しめる環境づくりを推進している。蔵書を増やし児童の言語活動を豊かにしたい。

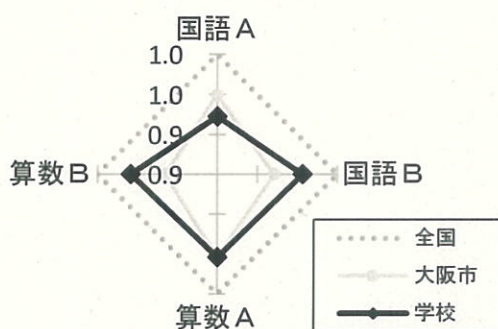
〔算数〕3年生以上では習熟度別少人数授業取り入れながら授業を進めている。また、1・2年生では、TTでの授業形態をとり児童のつまづきを減らしている。現状の取り組みは今回の結果に少なからず表れており今後も推進していく。図形領域の理解定着には授業での操作活動が不可欠であることから、算数デジタル教材を活用するなど、より視覚的に体験的に学習させたい。話し合う活動を大切にするすることで、考えの共通点や相違点を整理できるようにしたい。

【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	69	55	75	44
大阪市	71	53	75	42
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

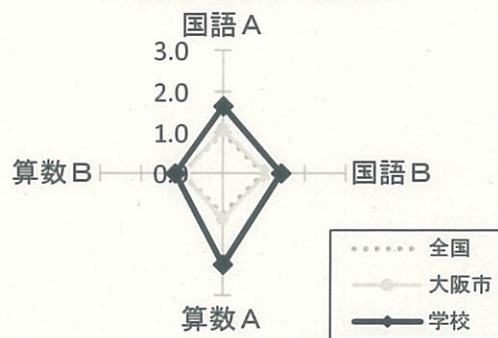
平均正答率(対全国比)



平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	4.6	6.1	3.6	7.5
大阪市	3.0	4.6	1.8	6.2
全国	2.8	4.3	1.6	6.4

平均無解答率(対全国比)

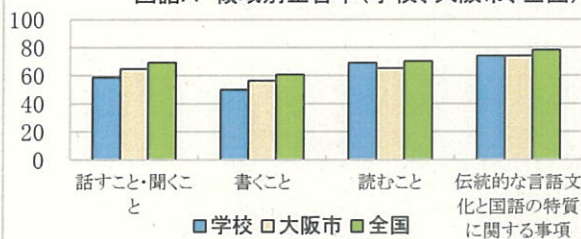


【 国語 】

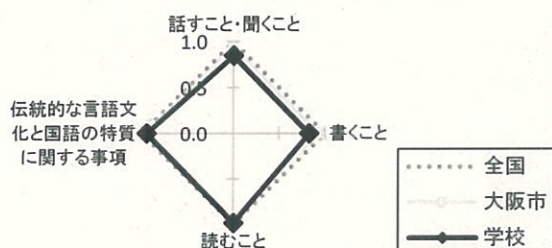
A 問題

			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	58.6	64.6	69.2
	書くこと	2	50.0	56.2	60.6
	読むこと	3	69.0	65.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	11	74.0	74.0	78.0

国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



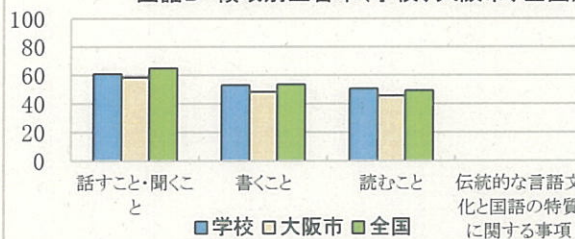
国語A 領域別正答率(対全国比)



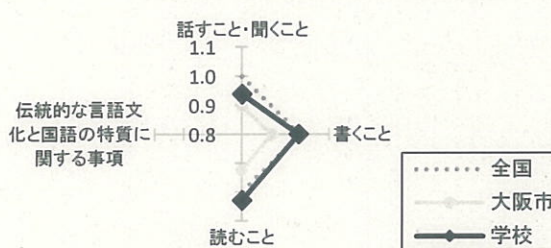
B 問題

			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	60.9	58.4	64.9
	書くこと	5	53.1	48.3	53.4
	読むこと	3	50.6	45.5	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



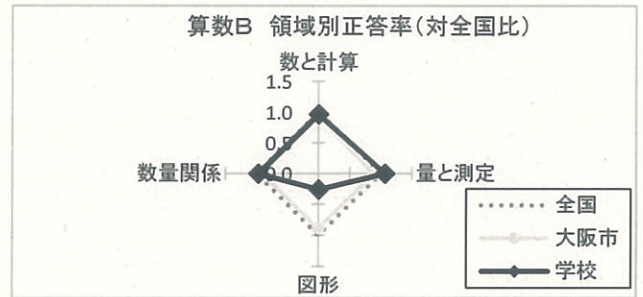
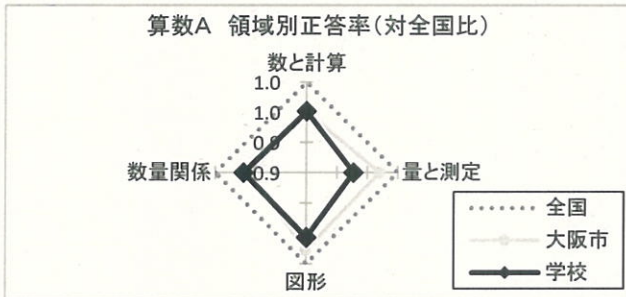
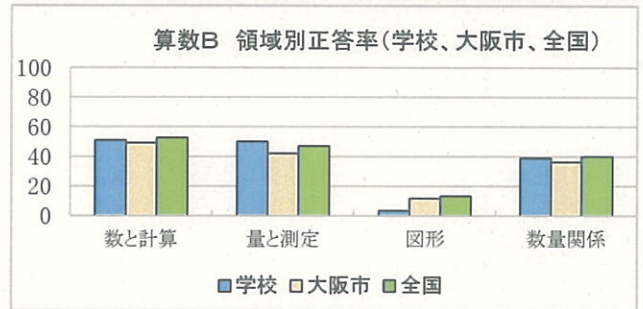
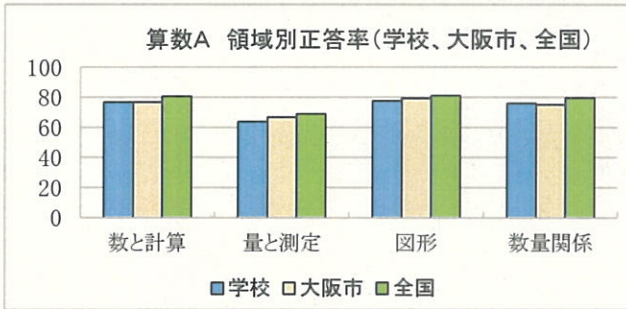
国語B 領域別正答率(対全国比)



【 算 数 】

A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	76.7	76.7	80.6
	量と測定	2	63.8	66.8	68.8
	図形	2	77.6	79.3	81.1
	数量関係	5	75.9	75.0	79.6

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	5	51.0	49.2	52.8
	量と測定	2	50.0	42.0	47.0
	図形	1	3.4	11.7	13.2
	数量関係	8	38.8	36.1	40.0



児童質問紙より

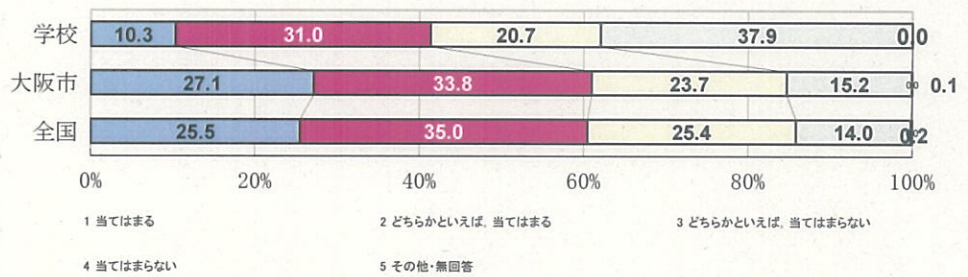
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号

質問事項

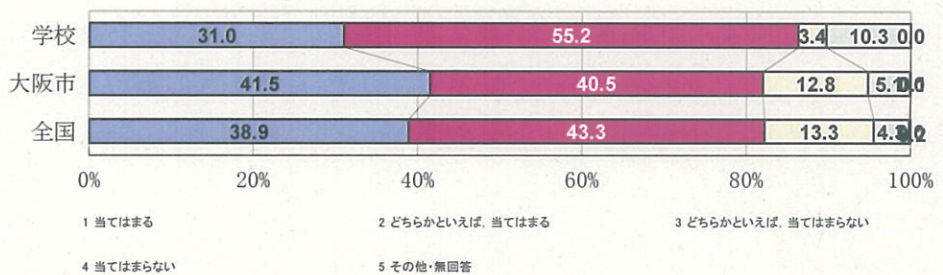
69

国語の勉強は好きですか



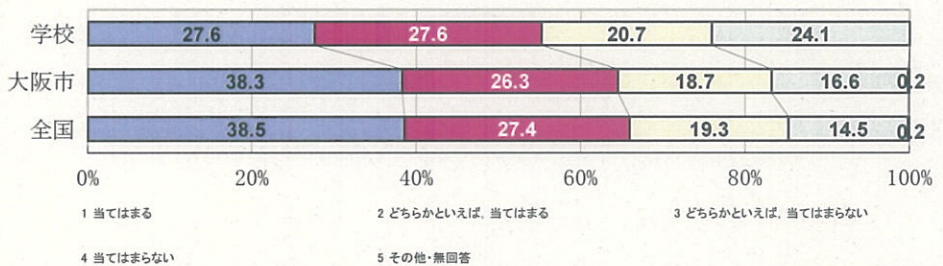
71

国語の授業の内容はよく分かりますか



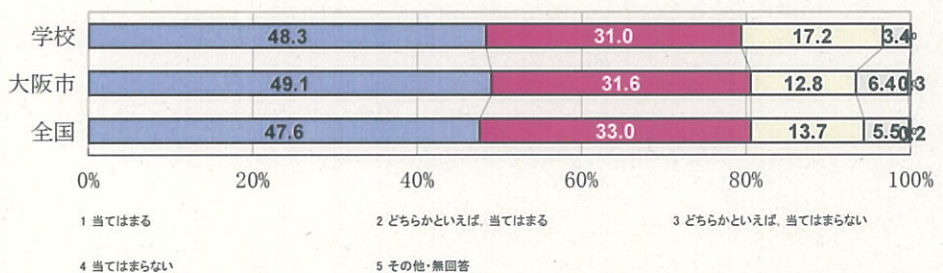
78

算数の勉強は好きですか



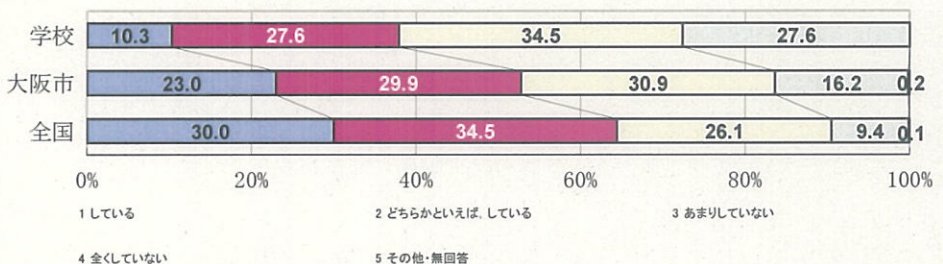
80

算数の授業の内容はよく分かりますか



29

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

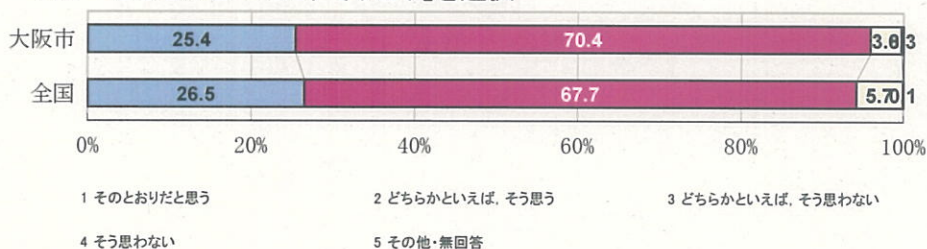
質問番号

質問事項

12

調査対象学年の児童は、
熱意をもって勉強している
と思いますか

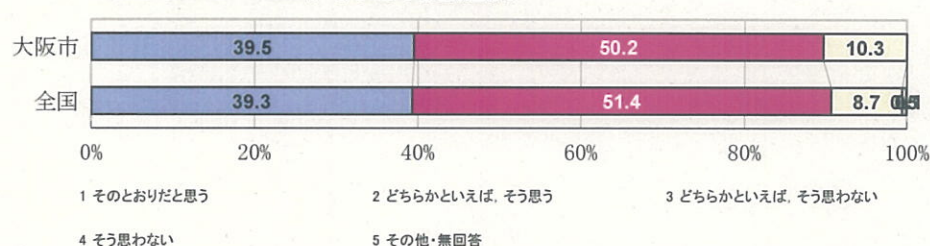
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



13

調査対象学年の児童は、
授業中の私語が少なく、落
ち着いていると思いますか

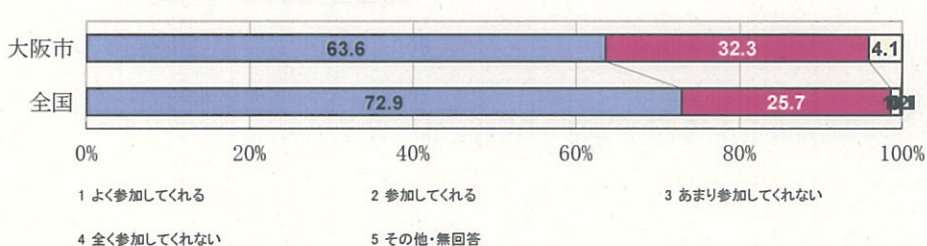
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



87

PTAや地域の人が学校の
諸活動(学校の美化, 登下
校の見守り, 学校行事の支
援など)にボランティアとし
て参加してくれますか

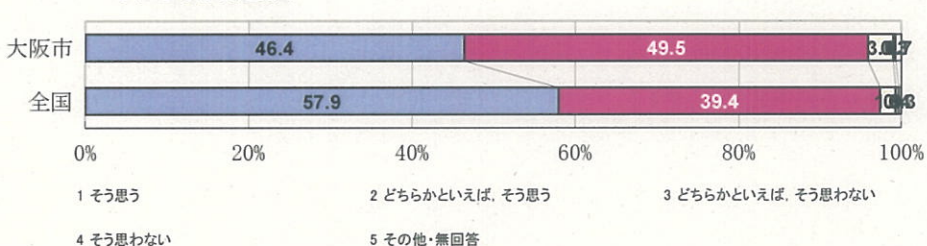
学校 「よく参加してくれる」を選択



89

保護者や地域の人の学校
支援ボランティア活動は、
学校の教育水準の向上に
効果がありましたか

学校 「そう思う」を選択



98

校長のリーダーシップのもと、
研修リーダー等を校内に設
け、校内研修の実施計画を整
備するなど、組織的、継続的
な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択

